

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 韮崎市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化事例研究
3. 研究タイトル : 魅力あふれる小規模校高度学習の推進
4. 研究課題 : (1)先進的ICT環境による、発表力の向上と個に応じた学力向上に向け
授業実践
(2)少人数での英語科教育の推進
(3)外部講師による実技教科等の技能の向上（音楽、図工、家庭、体
別活動等）
(4)スクールバス等を活用し、中学校区を単位とする学校間の積極的
(5)地域と連携した学習支援体制づくりと学校の地域への貢献を図る
(6)少人数集団である小学校から、大人数の中学校へ進学した際、人
が築けず不登校になることの防止

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

小規模校のメリットを生かし、デメリットを解消・緩和することにより、児童減
止めをかけ、小規模校が存続していけるよう本市ならではの特色ある教育を推進して
く。
小規模校ゆえにスタッフも少ないため、地域の教育環境を最大限に生かしながら、
機器を積極的に活用した教育実践を積み、グローバル人材の育成や次代を生きる力を
でいく。
研究内容及び概要としては、学習支援アドバイザーを用いICT機器の活用による学
上、英語力の育成、地域人材や専門家を活用した技能教科や総合学習での実技技能の
上、学校間で教科学習にまで踏み込んだ連携による交流、地域生涯学習の場での学習
の発表、本事業をとおしての不登校の防止等である。

(2) 調査研究の実施状況（平成29年度）

6月	<ul style="list-style-type: none"> ・事務担当打合せ会議 ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・外部講師による実技指導（穂坂小:ブラスバンド演奏指導）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・ICT機器基礎操作法校内学習会開催（穂坂小・韮崎北西小） ・中学校での授業体験及び施設見学（韮崎北西小⇒韮崎西中） ・中学校での部活動見学（韮崎北西小⇒韮崎西中） ・研究校間のネットワーク交流の試行（穂坂小⇒韮崎北西小） ・外部講師による実技指導（穂坂小:ブラスバンド演奏指導）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・学習支援アドバイザーによるICT機器活用講習会開催（穂坂小・韮崎北西小） ・円野かかし祭への出展による地域との連携（韮崎北西小） ・スクールミュージアム活用方法の検討（韮崎北西小） ・ICT環境整備（iPad追加購入、edutab boxの導入）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・学習支援アドバイザーによる edutab box活用講習会開催（韮崎北西小） ・中学校学園祭への参加（穂坂小⇒韮崎東中） ・外国語教育強化地域拠点事業公開研究会（穂坂小） ・ICT環境整備（apple TV購入） ・外部講師による実技指導（穂坂小:ブラスバンド演奏指導）

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・学習支援アドバイザーによる edutab box活用講習会開催 (穂坂小) ・地域施設へのプラスバンド慰問活動の実施 (穂坂小) ・地域農協祭へのプラスバンド・踊りによる参加 (穂坂小) ・ICT機器を活用した地域遠足事前学習会の実施 (葦崎北西小学校) ・外部講師による実技指導 (穂坂小:プラスバンド演奏指導) ・外部講師による総合的な学習 (葦崎北西小:円野町の歴史・文化についての学習) ・外部講師による実技指導 (葦崎北西小:作曲教室)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・地域人材講師の指導による菊づくりの成果として「菊まつり」開催 (穂坂小) ・市生涯学習フェスタでのICT機器を用いた学校紹介 (穂坂小) ・外国語教育強化地域拠点事業公開研究会 (葦崎北西小)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・学習支援アドバイザーによる edutab box活用講習会開催 (穂坂小・葦崎北西小) ・中学校での授業体験及び施設見学 (穂坂小⇒葦崎東中) ・外部講師による実技指導 (穂坂小:華道教室)
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・学習支援アドバイザーによるICT機器利活用講習会開催 (穂坂小) ・ICT環境整備 (iPad追加購入)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・児童アンケート実施 (穂坂小・葦崎北西小) ・教職員ICT機器活用アンケート (意識調査・活用力調査) 実施 (穂坂小・葦崎北西小) ・ICT環境整備 (Web会議試験用マイク、スピーカー導入) ・外部講師による実技指導 (穂坂小:プラスバンド演奏指導) ・外部講師による実技指導 (穂坂小:生け花教室) ・外部講師による実技指導 (葦崎北西小:生け花教室)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アドバイザー打合せ会議 ・中学校とのネットワーク交流実施 (穂坂小⇒葦崎東中) ・推進会議開催 ・外部講師による実技指導 (穂坂小:プラスバンド演奏指導) ・事業報告書の作成とホームページによる発信

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

(1)先進的ICT環境による、発表力の向上と個に応じた学力向上に向けての授業実践
 ○学習支援アドバイザーが研究校を週1回のペースで訪問し、ICT機器の利活用につ
 講習会を開催するとともに、授業の支援を行うことにより、ICT機器を活用した授業
 職員が抵抗なく行えるようになった。
 ○機器の充足や使用環境の整備により、準備・片付けの負担感なく利用機会が増えて
 いる。
 ○ICT機器を、教職員が教科の学習だけでなく学校行事等においても活用することや
 学年のうちから「慣れる・触れる」指導を基本とすることで、児童にも積極的に活用
 うという意識が育ってきた。
 ○iPadと大型モニターを連動して活用する方法により、一斉学習ばかりでなく、個別
 や協働学習の場でも活用の広がりが見られた。
 ○今年度導入した学習支援システム(edutab box)により、個別の学習状況をつかみ
 ら意見発表を促すなど、さらに多様な活用ができるようになった。
 ○校外学習において、iPadを持ち出して取材をし、班ごとに精選発表する実践や、写
 像を記録し、考察を加えて発表するアクティブラーニング型の授業実践などが見られ
 ○Web会議による小中学校間の交流授業の試行ができた。今後、本格的に実施するこ
 より、小学校間や小中学校間の授業交流や遠隔授業が可能となる。
 ○1人1台のiPad利用が可能な学年が増えることにより、個人のペースに合わせたま
 や、主体的に情報収集を行い判断する力を身に付けさせることが可能となった。
 また、情報端末に、ドリルや音楽、英語等のアプリをダウンロードし授業に使い始め
 るケースもあるため、全学年において1人1台のiPadを用いて学習できるよう整備し
 きたい。

(2)少人数での英語科教育の推進

○外国語活動、英語科の授業において、電子黒板を活用することにより、視覚的・聴
 に効果が高く、児童が意欲的に取り組める授業の実践ができた。
 また、これにより、担任主導のもとALTやJTEと連携を取りながら、オールイングリ
 シュを目指した授業を展開することができた。
 ○少人数のメリットを生かし、1時間の授業の中で全員がチャンツやゲームを体験す
 こと、ALTやJTEとの一対一の会話が経験できること、教員が一人ひとりのつぶやきを
 傾けられること、より多くの児童に発表の場が与えられること、パフォーマンス評価
 り入れた多様な評価が仕組めることなど、多くの成果が得られた。
 ○英語に慣れ、親しむ環境により、6年生では、自分のことについて3文程度で表
 る児童数は、80%以上となっている。
 ○児童が発表の経験を重ねることにより、公開授業の場においても参観者に臆するこ
 のびのびと学習している様子や、英語に不慣れな教員もクラスルームイングリッシ
 使い、オールイングリッシュで頑張っている姿に「担任が英語を楽しみ、ALTや
 とともにコミュニケーションを率先してとっている点が素晴らしい。」という評価を得
 とができた。

(3)外部講師による実技教科等の技能の向上(音楽、図工、家庭、体育、特別活動等)

○ブラスバンド演奏の外部講師による専門的な指導により、児童の演奏技術が向上し
 校行事だけでなく、地域の行事においても披露し、地域の宝となっている。
 ○華道教室などの日本の伝統文化を体験し、日常生活では少ない自分と向き合う貴重
 験をすることができた。
 ○地域の歴史や文化の伝承により、郷土愛を育むことができた。
 ○外部講師による授業は、普段の学習では得られない喜びがあり、新鮮な驚きととも
 学習に向かう姿勢の高まりが感じられた。
 ○外部講師による様々な経験により、6年生では将来の夢を作文に書いたり、粘土で
 の自分像を作ったりと、80%以上の児童が、将来の自分を思い描くことができた。

(4) スクールバス等を活用し、中学校区を単位とする学校間の積極的な交流

○ 市所有のスクールバスを活用し、進学する中学校へ出向き、授業を体験したり施慣れることにより中学入学への不安解消を図った。

・ 穂坂小学校の6年生が葦崎東中学校の1年生の英語科の授業に加わり、英語で自己紹介をするなど交流を図った。

・ 葦崎北西小学校から葦崎西中学校へスクールバスで出向き、施設見学や授業、音の様子を参観した。

先輩である中学生が温かく迎えてくれ、早く中学校へ進学し、一緒に活動したい待感を表している児童もおり、進学への不安解消につながった。

○ 中学校行事の参観

・ 葦崎北西小学校の6年生が葦崎西中学校の合唱祭を鑑賞し、素晴らしい合唱や観態度に感動と憧れを抱いていた。

・ 葦崎東中学校の学園祭に穂坂小学校の児童が招待され、展示物や発表を鑑賞し、の進学後の様子を把握するため教職員も参観した。

○ 中学校の教諭による出前授業の実施

・ 葦崎西中学校の国語教諭が葦崎北西小学校に訪問し、古典の授業を行った。小論の授業と違う緊張感や新鮮さをもって体験し、中学校の授業への興味関心が高まった。

○ 学区内の小中学校での連携交流を体験することにより、先輩である中学生からたんのことを教えてもらいたいと期待感を表している児童もおり、中1プロブレムの不払拭されていた。引き続き中学校への不登校者数ゼロを継続していく。

(5) 地域と連携した学習支援体制づくりと学校の地域への貢献を図る。

○ 地域遠足に向けての合同学習会において訪問地域の元公民館長を招き、見学場所の位置やいわれについて説明していただき、遠足に向けての意欲を高めることができた。

○ 上今井祭典（大山神社）に3年生の児童が招待され、神聖な神楽殿に上がらせていきながらお神楽を見る滅多にできない経験をし、地域の伝統行事について学ぶことになった。

○ 中学年が学区のサクランボ農園やブドウ園、農協選果場等を校外学習で見学し、地味から学び、穂坂果実郷を意識する機会となった。

○ 外部講師による菊づくり指導のもと、5年生を中心に菊づくりを行い、開花した菊内の各施設に飾って多くの人に成果を見てもらえた。

○ 「菊まつり」に多くの保護者・地域・来賓（外部講師や校外学習等でお世話になった方々等）を招待し、学年発表等により活動の成果を発表して感謝の気持ちを伝えることができた。

○ 地域の病院の祭りに6年生がブラスバンドで参加し、慰問活動を行った。

○ 市生涯学習フェスタに本校児童代表が参加し、ICT教育を活かした「穂坂小学校の自己紹介」のプレゼンテーションを行い、好評を博した。

○ 運動会の全校踊りや太鼓演奏指導に地域の講師を招聘し、伝統芸能を伝承していった。

○ 公民館・PTA・学校共催の「ふれあい教室」の開催は、木工教室、グライターの教室（航空学園講師）、繭玉教室（公民館女性部）、ミニ気球教室、和風教室、お手玉教室、壁飾り教室の7つのブースに分かれ、親子三代がそろって活動する貴重な体験の場となっている。

昼食は地区ごとに分かれ豚汁とおにぎりを食しながら、自己紹介や感想発表などを行い、地域及び三世代の交流を深めた。

○ 地域ふれあい道徳公開授業を実施し、地域の方を講師として授業を行った。また、こま育成協議会の方々を招待し、授業や本校の取組について意見をいただいた。

○ 穂坂町文化祭では6年生児童によるブラスバンド演奏、穂坂放課後子ども教室の児童によるヒップホップダンスが披露された。

(6)少人数集団である小学校から、大人数の中学校へ進学した際、人間関係が築けず校になることの防止
○小中連携を積極的に推進し、進学先の中学校の雰囲気慣れさせるとともに、進学期待感を持たせ、不安解消を図った。
○小集団の良さを生かして自分を発揮する経験を積む活動を積極的に取り入れ、自己感を育ててきた。
○ICT機器を活用した授業交流を行い、交流を深めながら、「もうすぐ中学生」として希望をもって生きる態度の育成を図った。
また3月には、中学校の校長が小学校へ出向き、中学校生活について直接話し合いを持つことにより、中学校入学に向けて、夢と希望を抱きながら入学を待ち望む児童の育成を図った。

(2) 成果物等

- ・ ICT機器活用講習会資料
- ・ 新ICT機器活用ハンドブック (iPad基本操作)
- ・ edutab box活用研修会資料

(3) 今後の取組予定

- ・ ICT機器の活用では、iPadを全学年において1人1台利用できるよう増設し、児童らに操作に慣れ、積極的に活用できるよう整備するとともに、協働学習だけでなく練習での活用も広げ、よりきめ細かな指導を実施していく。
- ・ ICT機器の操作については、積み上げた活用水準を維持できるよう、教員同士で学内研修を年度当初に位置づけていく。
- ・ ICT機器活用記録を保存し、人員の入れ替わり後も引き継いでいけるよう取り組んでいく。
- ・ 地域との連携においては、地域人材の活用を継続するとともに、児童の地域行事等参加など積極的に関わりを持ち、交流を深め、互いに支え合う関係性を保つ。
- ・ 学校間連携では、研究校同士の交流だけでなく、小小、小中学校間でのネットワーク構築し、多様な考え方に触れる機会を持たせるとともに、少人数集団でもスムーズに校に入学できるよう、さらなる交流を図っていく。

ての

育、特

な交流

間関係

に歯
てい

ICT
を育ん

力向
り向
習成果

小)

いて
を教

てきて

、低
用しよ

川学習

々なが

経験映
した。
とに

学習

わてい
してい

徳覚的

リッ

できる
こ耳を
皿を取

見でき

ことな
ンユを
JTEと
導るこ

り、学

重な経

らに、

で将来

設に
自己紹
部活動
と期
監賞の
児童
学校教
った。
くさ
不安は

り施設
きた。
いただ
ができ
地域の
南を市
った
ことが
紹
をだい
教室
教室、
となつ
を行
わか
児童に

不登
学への
肯定
て夢
える場
籠の育

がさ
個別学
ぶ校
でい
学への
ークを
こ中学